

# 令和6年度 小平市立小平第二小学校 学校評価報告書

**学校教育目標** 日本国憲法、教育基本法の精神及び人間尊重の精神を基盤に、そして小平市教育振興基本計画の理念を基本に、国際社会に貢献できる日本人、郷土を愛する市民であるという自覚を育てる。同時に、小学校教育を生涯学習の一環と捉え、学習の基礎・基本の定着を図り、互いが認め合う心と体の健康づくりのための教育を推進する。  
考える子 やりぬく子 ◎思いやりのある子

**目指す学校像(ビジョン)**  
**【目指す学校像】** 「人と人とのつながりを大切に、笑顔あふれる学校」  
**【目指す児童・生徒像】** 1. 自分の考えをもち、判断し、行動できる子 2. 元気でたくましく、最後まで頑張る子 3. 相手の立場や気持ちを考え、共に生きる豊かな心をもつ子  
**【目指す教員像】** 1. 全体の奉仕者として自己の使命を自覚する 2. 専門職、教育のプロとして研究と修養に努める 3. 組織的な対応を意識して職務に励む 4. 健康保持や自己の働き方に留意する

**前年度までの学校経営上の成果と課題**  
 ・成果:創立150周年事業を学校・地域・保護者が一体となって取組を実現することができた。創立150周年事業を通して児童の愛校心が高まり、主体的に協力して活動する意識が高まった。  
 ・課題:不登校児童への対応と通常学級と特別支援学級との交流及び共同学習、理解教育を充実を図る。本校が初任及び2枚目の若手教員の指導力・授業力の向上に取り組む。

	具体的方策	第1回評価		成果・課題・対策	第2回評価		学校関係者評価	成果・課題・次年度以降の対策
		取組指標	成果指標		取組指標	成果指標		
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年以上の算数習熟度別学習や朝学習、夏季休業中の補習授業を実施し、個の課題に応じた指導をする。併せて学習者用端末を活用して家庭学習の充実を図る。</li> <li>全国学力学習状況調査、東京・センソッドの診断テスト等の結果を生かしながら、授業改善プランを作成し、授業改善を図る。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の学習状況に合わせて朝学習や放課後に補習授業を実施できた。学習者用端末を活用した家庭学習については、各学年の実態に合わせて活用を推進する。</li> <li>全国学力学習状況調査結果や算数・ベネッセの診断テスト結果を分析し、各学年児童の実態を把握し、授業改善プラン作成した。授業改善プランに沿って授業改善を推進する。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>算数の診断テストの結果を丁寧に集計・分析してまとめてくれて活用できた。</li> <li>デジタル教科書が学習者用端末で活用できるようになり、授業に生かせるようになった。</li> <li>教員のICTスキルに差がある実態があるため実践共有シートを共有する時間が取れるとよい。</li> <li>行事のスケジュールがつまり過ぎていて、結果勉強の時間が削られてしまうのが心配。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校全体で計画的に朝学習や家庭学習、放課後の補習授業を実施できた。学年によって日々の家庭学習や長期休業中に学習者用端末を使用して、家庭学習に取り組むことができた。次年度は、学校全体で学年の実態に合わせて、日々の家庭学習で活用できるように推進する。</li> <li>全国学力学習状況調査や算数・ベネッセの診断テスト等の結果を分析し、各学年児童の実態を把握し、授業改善プラン作成し授業改善に取り組むことができた。次年度は、各児童の学習課題に合わせた補充学習や朝学習や家庭学習で効果的に取り組むことができるように取り組む。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育部を中心に「こたいらこれだけは」の徹底等全ての児童にとって通しやすい学習環境づくりに取り組む。</li> <li>校内研修やOJT研修で、学習活動での効果的な学習者用端末の活用や指導方法の工夫改善に取り組む。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教室で「こたいらこれだけは」に取り組むことができて、引き続き、学校全体で児童にとって通しやすい学習環境づくりに取り組む。</li> <li>校内研修で、学習活動での効果的な学習者用端末の活用や指導方法の工夫改善を進めている。校内研究の成果や課題は、学校全体で共有し取り組めるようにする。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育部を中心に「こたいらこれだけは」を推進し取り組むことができた。次年度も授業や教室環境のユニバーサルデザイン化を推進し、児童にとって通しやすい学習環境づくりに取り組む。</li> <li>校内研修で、学習活動での効果的な学習者用端末の活用や指導方法の工夫改善に取り組んだ結果、教員の学習者用端末や授業支援システムを活用した授業実践が増加した。次年度に向けて、研究推進部が学習者用端末の効果的な実践をまとめ、学校全体で取り組めるようにする。</li> </ul>	
安全教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月の避難訓練や安全指導に「安全教育プログラム」を活用した指導を工夫し、生活安全・交通安全の意識を高める。また学年の実態に合わせてセーフティ教室、交通安全教室等の講師を招請しての体験型指導の充実を図る。</li> <li>SNS東京ノート、「二小SNSルール」を活用し、児童の実態に合わせた情報モラル教育に取り組む。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月の安全指導や避難訓練を計画的に取り組むことができた。各学年の実態に合わせて安全教育プログラム」活用を推進する必要がある。</li> <li>各学年の実態に合わせてセーフティ教室等情報モラル教育に取り組んでいる。さらに学校全体でSNS東京ノート」を活用した情報モラル教育を進める必要がある。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練が様々な想定がありよくなった。また、担当から安全指導なこまめなアナウンスで分かりやすかった。</li> <li>避難訓練の反省はすぐに行われていた。その内容を生かすために夕会やメールで共有した方がよい。</li> <li>学習者用端末について、発達段階に応じた使い方の約束を掲示し、取り扱いについても徹底をさせていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練を地震・火災・不審者対応、予告なしでの訓練等、内容や避難の方法を工夫しながら、実践的に行うことができた。次年度に向けて生活指導部を中心に各学年の実態に合わせて安全教育プログラムを効果的に活用できるよう指導計画を直し実施できるようにする。</li> <li>情報モラル教育の年間指導計画に基づいて、長期休業前は全学年がSNS東京ノート」を活用して理解を深めたり、学習者用端末使用ルールを全校で共通理解を図ったりするなど取り組むことができた。次年度に向けて二小SNSルールや学習者用端末使用ルールの見直し、指導の徹底に努める。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災ノートを計画的に活用し防災意識を高める。</li> <li>教室移動等全ての教育活動を行う空間に防災頭巾を持ち込み児童の防災意識の向上を図る。</li> <li>全教職員が「二小危機対応管理マニュアル」を十分理解し、意識向上を目指す。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>教室移動等全ての教育活動を行う場に防災頭巾を持ち込みを行うことができて、各学年の実態に合わせて防災ノートの活用を推進する必要がある。</li> <li>年度当初に、全教職員が「二小危機対応管理マニュアル」について内容を確認し、非常事態に備え意識を高めた。引き続き、「二小危機対応管理マニュアル」を活用した研修実施し意識の向上を図る。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>教室移動等全ての教育活動を行う場に防災頭巾を持ち込みを行うことができた。次年度は生活指導部を中心に学年の実態に合わせて、計画的に防災ノートを活用して防災意識を高められるようにする。</li> <li>教職員が「二小危機管理マニュアル」を配布し、職員夕会等で随時、緊急時に自身が果たす役割と責任を確認し理解に努めることができた。次年度は、「二小危機対応管理マニュアル」を活用した研修実施し、さらなる意識の向上に取り組む。</li> </ul>	
いじめ防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学級で代表委員が採択した「いじめゼロ宣言」を受け、いじめ見逃しゼロの目標を掲げ、取組化や実現化を図る。</li> <li>いじめ対策会議を月1回及び対応が必要な事案が発生した際は即時開催し組織的に迅速に対応する。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学級で「いじめゼロ」の目標を作成し、取組を推進している。適宜、目標に対する振り返りをし、取組を推進する。</li> <li>月ごとにいじめの実態を調査し、いじめの未然防止や早期発見・早期対応に取り組んでいる。いじめ対策会議を月1回及び対応が必要な事案が発生した際は即時開催し、解決に努めている。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎週、生活指導夕会があるおかげで、クラスへの指導に反映ができた。</li> <li>いじめゼロ宣言の作成・実施が効果的であった。</li> <li>児童が主体的に取り組もうとする姿は見られたが、相手意識が高まるとよりよいと感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>二小のいじめゼロ宣言を基に各学級でいじめゼロに向けて目標を掲げ取り組むことで、児童に相手を尊重し認める態度やいじめはしてはいけないという意識を高めることができた。次年度も引き続き実施し、児童の意識向上に努める。</li> <li>生活指導夕会で「いじめ総合対策」等を活用して、いじめ重大事態の確認、いじめ未然防止等の教職員研修に取り組むことができた。次年度に向けて二小のいじめ防止基本方針の見直しを行い、学校全体で共通理解を図り取り組む。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級活動、学校行事、異年齢交流活動等の特別活動を通して、協力する楽しさや喜び、自治的活動のよさを実感させ、支持的風土を育成する。</li> <li>特別支援教育部を中心に若草学級との交流・共同活動、副籍交流を計画的に実施し、取組の充実を図る。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別活動部を中心に計画的に取組を推進できている。各活動実施後に教員間で改善案を出し合っており、よりよい活動になるように取り組んでいる。</li> <li>特別支援教育部を中心に通常学級と若草学級の交流及び共同学習や副籍交流を計画的に進めることができて、しかり学年によって取組状況に温度差があるため、担当と連携して改善に努める。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶運動や校内放送で休み時間みんなで遊ぶ工夫をされていて、人見知りな我が子でも馴染めることができたのでよかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別活動部を中心に計画的に学級活動、学校行事、異年齢交流活動等に取り組むことができた。次年度に向けて、特別活動部で各活動実施後の改善案を生かして年間計画を作成し、よりよい活動になるように取り組んでいく。</li> <li>特別支援教育部を中心に通常学級と若草学級の交流及び共同学習や副籍交流を計画的に進めることができた。次年度に向けて、特別支援部で成果と課題をまとめ、次年度の計画に生かしていく。さらに保護者会やHP、便り等を活用し保護者理解を促されるように取り組む。</li> </ul>
特色ある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間計画に沿って、学校経営協議会、避難所運営準備会を開催する。地域、保護者にHPやCS(せ)等を活用して、学校経営協議会の様子や各プロジェクトの理解を促し協同して取組を推進できるようにする。</li> <li>学校経営協議会を中心にPTAや青年会と連携して、学校支援ボランティア、地域行事等に取り組む。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間計画に沿って、各会議を開催できている。各会議について保護者・地域に理解を広めるためHP等を活用して情報発信を工夫して取り組む必要がある。</li> <li>学校経営協議会を中心に学校支援ボランティアとして保護者・地域の方に参加を促している。より多くの方に参加いただけるようにHPアプリ等で広報に力を入れる必要がある。</li> </ul>	4	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事などの決まったときにしかできなかったため、お楽しみ会などの行き来をしたらどうかをしていきたい。</li> <li>校内委員会を積極的に関き、早期に支援につなげることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間計画に沿って、学校経営協議会、避難所運営準備会を開催し、取組を推進することができた。各会議のHPを活用し取組の周知を行うことができた。次年度に向けて、さらに保護者・地域に理解を広めるためHPやSNSを活用し、工夫して取り組む必要がある。</li> <li>学校支援ボランティアとして保護者・地域の方にHPアプリ等を活用して多くの方に参加を促すことができた。次年度、さらに多くの方に参加いただけるようにHPアプリ等で広報に力を入れる必要がある。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育部が中心に通常学級・若草学級・きこえとどば教室・くすのき教室との連携を図るよう互いの取組を把握し、情報を共有する。</li> <li>特別支援教育部が計画的に校内委員会を開催する。必要に応じて特別支援教室教員、医療機関等関係機関との連携や、SC・SSWなどとの情報共有を図り対応する。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育部を中心に校内委員会や生活夕会等を通して、情報共有し、連携して支援や配慮の必要な児童の支援につなげることができた。多様な支援を要する児童の増加とともに多くの目で児童を見守る人材の確保が課題となっている。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>副籍交流学級で実施している特別支援学校教員による理解推進授業を全校で実施できるようであればよい。</li> <li>二小は地域の人においざつができていない子が多いと感じる。犯罪禁止観点から面白い指導を強化したらよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育部を中心に組織的に校内委員会や生活夕会等を通して、連携して支援や配慮の必要な児童の対応につなげることができた。さらに子ども家庭支援センターなどの関係機関等とも連携して、支援が必要な児童や保護者の対応を進めることができた。支援を必要とする児童が増加しているため、さらなる校内支援体制の強化を検討する必要がある。</li> </ul>
業務改善や教職員の働き方	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習者用端末やC4th校内掲示板や職員室メールを活用し会議時間短縮、校務軽減を推進する。</li> <li>週に定時退勤日を設定し、週当たり在校時間は最大60時間とする。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習者用端末を使用して職員会議時間短縮につながった。またC4th校内掲示板を活用することで、打ち合わせ等の回数を削減できている。</li> <li>在校時間について個人差が大きい。それぞれが抱えている分掌の均等化や在校時間の長い職員には声掛けを続け改善に努める。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>見直しをもとめて働くことで、ワークバランスをとることができた。</li> <li>欠席、早退、遅刻連絡をアプリで連絡できるシステムがあればよい。</li> <li>先生方が一致団結して行事や日々の業務に取り組んでいらっしやると感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習者用端末やC4th校内掲示板を活用して、職員会議等の諸会議時間短縮や回数削減、打ち合わせ等の回数を削減することなど校務軽減を推進できた。随時、C4thを確認するよう声を掛け、習慣化を図る。</li> <li>月の在校時間が長い教員に声掛けをしたり医療面談を実施したりした。教員の健康保持した積極的な休暇取得を推進した。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部会・分掌組織の取組は、目標値を掲げるなど明確化する。</li> <li>自己申告書に示した取組の進捗状況を把握し適宜改善を図る。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部会・分掌組織で目標値を掲げることで、計画的に取組を推進できている。改善点については、その都度学校全体で自己申告書に示した取組目標に向っての実践を随時、確認し達成できるように進捗管理する。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部会・分掌組織が、主任を中心に目標値について取組を評価し、課題について改善策を検討し、次年度の計画に生かすことができた。各部会・分掌の引き継ぎを確実に実施する。</li> <li>自己申告書の取組目標を具体的にすることで、取組を随時、確認し達成できるように進捗管理することができた。教員が個々の職務・職務に適した目標設定をし、取り組むことができていく。</li> </ul>	